

令和3年度

事業報告書

令和4年3月31日

社会福祉法人 福岡県共同募金会

# 目 次

事業の概要	1
1 法人の運営	2
2 市区町村支会の支援	2
3 広報活動の強化	2
4 募金推進への取組	4
5 募金実績及び募金活動の取組	5
6 適正かつ効果的な配分の実施	8
7 社会福祉協議会との連携強化	9
8 顕彰の実施	9
9 災害復興に対する支援	10
10 受配者指定寄付金の普及と活用促進	11
11 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン実施	12
12 公益補助事業等への協力	12
事業報告附属明細書	13

## 事業の概要

少子高齢・人口減少の進展、人と人とのつながりの希薄化、支え合いの仕組みの脆弱化など、地域社会が大きく変化し続ける中であって、長期化する新型コロナウイルス（以下、コロナという。）感染拡大の影響を受け、共同募金運動を取り巻く環境は一層厳しさを増した。

このような状況のもと、本会では、コロナ感染拡大防止を最優先にしながらも、昨年開催を中止した市区町村支会役職員を対象とする会議・研修会等を対面やオンラインで開催し、各支会の状況や意向等の把握に努めるとともに、関係機関・団体等と連携してコロナ禍での共同募金運動の展開や対応等について、情報の共有化を図った。

広報啓発活動については、例年同様、福岡ソフトバンクホークスの協力のもと作成している独自ポスター・チラシの配布、ホームページや広報誌の活用、イベント時のマスクミへの取材依頼、児童・生徒に対する福祉教育の一環として取り組んでいる赤い羽根キャッチフレーズ募集など、積極的に取り組んだ。

また、各支会においても、役職員が一体となり、2年目となったコロナ禍での運動について、昨年度の経験等を踏まえながら創意工夫し、募金実績確保に向け様々な取組を行った。

その結果、コロナ禍前の7億円台には及ばなかったが、昨年度の実績をわずかに上回る事ができた。

県民の皆様から寄せられた一般募金及び歳末たすけあい募金については、社会福祉法第115条に基づく配分委員会で申請施設・団体の調査（コロナ禍のため事務局が実施）及び審査を実施のうえ、公正かつ有効に配分を行った。

また、令和3年8月福岡豪雨災害に際しては、災害救助法が適用されると同時に義援金募集を開始するとともに、久留米市災害ボランティアセンターの運営費として災害等準備金を拠出し、被災地の復興支援に取り組んだ。

さらに、中央共同募金会等と協働した「新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン『いのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～』」に引き続き取り組み、福祉課題解決に取り組む県内の団体等を支援した。

本年度の具体的な取組は、次のとおりである。

## 1 法人の運営

### (1) 評議員会の開催（2回）

第214回評議員会 （定時評議員会）	令和3年	6月28日	（決議の省略）
第215回評議員会	令和4年	3月28日	春日市

### (2) 理事会の開催（4回）

第351回理事会	令和3年	4月1日	（決議の省略）
第352回理事会	令和3年	6月4日	（決議の省略）
第353回理事会	令和3年	6月28日	（決議の省略）
第354回理事会	令和4年	3月10日	春日市

### (3) 監事会の開催（1回）

監事会	令和3年	5月25日	春日市
-----	------	-------	-----

### (4) 評議員選任・解任委員会の開催（2回）

評議員選任・解任委員会	令和3年	6月16日	（決議の省略）
評議員選任・解任委員会	令和4年	3月17日	（決議の省略）

## 2 市区町村支会の支援

### (1) 会議等の開催

ア 新任者研修会	令和3年	4月28日	春日市
イ 担当職員研修会	令和3年	8月26日	（オンライン）
ウ 支会会長・事務局長会議	令和4年	2月17日	（オンライン）

### (2) 個別支援の実施

市区町村支会への本会職員による個別訪問（13市区町）

## 3 広報活動の強化

### (1) 赤い羽根データベースシステム「はねっと」による情報公開の推進

中央共同募金会ホームページ上に開設されているデータベースシステムを活用し、配分使途等の情報を公開した。

### (2) 福岡県共同募金会ホームページによる情報公開の推進

本会ホームページにおいて、共同募金運動等の情報を公開した。

### (3) 赤い羽根応援大使等による広報啓発

福岡ソフトバンクホークスの全面的な協力のもと、周東 佑京選手、甲斐野 央選手に赤い羽根応援大使（以下、応援大使）に就任いただき、ポスター・チラシ・パンフレットへの写真掲載等、共同募金運動のPRに協力いただいた。

また、平成25年度から採用している球団マスコット（ハリーホーク）と赤い羽根がコラボレーションしたバッジを本年度も作製し、広報活動を強化した。

さらに、共同募金運動啓発のため、応援大使の出席のもと、本年度のポスター等の一般公開及び募金推進キャッチフレーズの記者発表会を実施した。

#### ア 記者発表会

期 日 令和3年 9月 3日

場 所 福岡ペイペイドーム内 プレスカンファレンスルーム

### (4) 広報活動の推進

#### ア 広報啓発資材の活用

##### (ア) 全戸配布チラシの作成・配布

前年度の募金配分結果及び今年度の募金への協力依頼を掲載。

885,700部

なお、62ヶ所の支会では、本チラシの裏面を活用し、地元の情報を織り込んだ市区町村独自チラシを作成した。

##### (イ) 街頭募金用チラシの作成・配布

23,300部（17支会）

##### (ウ) 共同募金パンフレットの作成・配布

19,400部（44支会）

##### (エ) 共同募金リーフレットの作成・配布

18,200部（25支会）

##### (オ) 共同募金ボランティアハンドブックの作成・配布

27,800部（49支会）

##### (カ) 募金運動啓発ポスターの作成・掲示

県内の学校、社会福祉施設、社会福祉協議会、銀行等に掲示

16,970枚

#### イ 封筒の裏面活用

本会封筒の裏面を活用し、配分使途等の情報を広く周知した。

14,500部

#### ウ 福岡県社会福祉協議会広報誌への広報掲載

県社協広報誌「ふくおかのふくし」（20,000部発行、3,954カ所に年4回配布）に共同募金の取組に関する記事を掲載し、県民の方々へ理解と協力を求めた。

#### エ マスコミによる広報推進

共同募金運動に係る各種イベント開催や取組など、資料提供や取材依頼を行うことにより、新聞・テレビ・ラジオ等の協力による広報活動を展開した。

### (5) 福祉教育の推進

共同募金運動や社会福祉全般についての県民の理解促進や福祉教育の一環として、福岡県、北九州市、福岡市の各教育委員会の後援のもと、児童・生徒に対し、募金運動推進キャッチフレーズを公募した。

共同募金推進委員会による選考を経て、最優秀作を本年度の運動推進のキャッチフレーズとして活用した。

#### ア 募集期間

令和3年 4月21日から 令和3年 6月 2日まで

#### イ 応募総数

5,268点 (小学校22校・中学校13校・高校5校・特別支援学校3校の計43校)

#### ウ 入選作品及び特別賞

(ア) 最優秀作 「あつまれば 大きなちから 赤い羽根・・・赤い羽根共同募金」  
古野 結月さん (福岡市立能古小学校4年/福岡市)

(イ) 優秀作 10作品

(ウ) 特別賞 28校

#### エ 表彰

最優秀作受賞者に対して、福岡県社会福祉功労者表彰式において表彰を行った。

また、優秀作受賞者及び特別賞受賞校には、該当支会代表者とともに各学校を訪問し、表彰状の授与を行った。

## 4 募金推進への取組

### (1) 共同募金推進委員会の開催

第1回 令和3年 7月 6日 (書面審議)

第2回 令和4年 3月 3日 (書面審議)

### (2) 市区町村支会モデル指定事業の実施

共同募金運動の啓発や実績向上を図るため、大牟田市・中間市・大任町の3支会をモデル指定し、地域の実情を踏まえ、関係機関・団体等との協働による新たな取組を行った。

#### ・大牟田市 募金協力者の拡大

市内の小学生に共同募金に親しみを持ってもらうため、啓発資材(クリアファイル)のデザインを募集し、その作成過程を通じて、興味と理解を深めてもらうことができた。

また、デザインを考えた児童の保護者や学校関係者、地域の方々の協力もあり、共同募金の広報啓発にもつながった。

・中間市 共同募金配分等の見直し

公平公正な配分、新たな地域福祉の活性化に繋げることを目的に、公募を実施している先進地の取組など情報を収集し、運営委員会、配分委員会を設置することができた。

また、配分に一部公募制を取り入れることとし、幅広い団体へ助成ができる仕組みが構築できた。これらについては、チラシを作成して市民への周知に努めた。

・大任町 若い世代等への広報

地元中学生（美術部）と協働してエコバッグを作成することで、若い世代が共同募金に関心を深めるきっかけ作りとなり、また、それを募金資材として活用することで、町民の方々に共同募金を身近に感じてもらえる良い機会になった。

更に、子育て世帯には、町の2カ月児親子家庭訪問時にマグネットシートを配布してもらうなど、様々な機関・団体の協力もあり、共同募金の広報啓発につながった。

### （3）赤い羽根自販機の設置促進

売上の一部等が募金される自動販売機「赤い羽根自販機」の設置を促進し、本年度は14市町に23台の赤い羽根自販機が新たに設置された。

※赤い羽根自販機設置状況 51市町 412台（令和4年 3月31日現在）

### （4）募金百貨店プロジェクトの普及・啓発

売上の一部が募金される寄付つき商品「募金百貨店プロジェクト」の普及・啓発に努め、各支会・企業等と共同して開発等を行った結果、本年度は新たに1社の寄付つき商品が誕生した。

※協力企業・事業所数 16市町 124ヶ所（令和4年 3月31日現在）

## 5 募金実績及び募金活動の取組

### （1）目標額及び実績額

#### ア 一般募金

目標額は、各支会の前年度（令和2年度）実績額とした。

（ア）目標額 584,688,621円

（イ）実績額 592,578,499円

#### イ 歳末たすけあい募金

目標額は、県及び市区町村社会福祉協議会の申請額をもとに募金計画を作成し、関係支会・機関一体となって運動を展開した。

（ア）目標額 80,714,348円

（イ）実績額 95,363,905円

a NHK歳末たすけあい募金（県域） 18,122,707円

<協力企業・団体>

NHK福岡放送局・NHK北九州放送局・福岡銀行・西日本シティ銀行・筑邦銀行・福岡中央銀行・北九州銀行・福岡県信用農業協同組合連合会・福岡県信用漁業協同組合連合会・西日本新聞民生事業団

b 地域歳末たすけあい募金 77,241,198円

※地域歳末たすけあい運動実施支会 32支会

ウ 地域課題解決型募金（テーマ型募金）

目標額は、参加団体の使途計画における申請額に事務経費等を加えた額とした。

(ア) 目標額 703,050円

(イ) 実績額 866,564円

エ 実績額合計 688,808,968円

※参考 令和2年度募金実績 684,452,638円

オ 募金方法別実績

(単位 円)

募金方法	一般募金		歳末たすけあい募金		テーマ型募金	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
戸別募金	430,869,506	72.71%	71,261,768	74.73%		
街頭募金	2,338,290	0.39%	669,802	0.70%		
法人募金	78,176,222	13.19%	1,405,280	1.48%	786,308	90.74%
学校募金	4,456,743	0.75%	51,113	0.05%		
職域募金	13,633,704	2.30%	2,109,283	2.21%		
イベント募金	369,781	0.06%	55,281	0.06%		
バッジ募金	2,331,264	0.39%				
クオカード募金	13,277,394	2.24%				
図書カード募金	5,792,586	0.98%				
ボールペン募金	4,211,316	0.71%				
個人募金	16,639,328	2.81%	17,329,409	18.17%	58,000	6.69%
自販機募金	9,338,661	1.58%				
寄付つき商品	515,156	0.09%				
その他	10,628,548	1.80%	2,481,969	2.60%	22,256	2.57%
合計	592,578,499	100.00%	95,363,905	100.00%	866,564	100.00%

## (2) 一般募金の取組

ア 街頭募金・啓発等

(ア) 本会

a 初日街頭募金

西鉄福岡（天神）駅周辺で、初日街頭募金を行った。今年も、昨年同様コロナ感染拡大防止のため、募金呼びかけの場所や1カ所あたりの参加人数を減らし、フィジカル・ディスタンスの確保に努めた。また、大声での呼びかけは行わずに音声データを活用し、マスク、手袋を着用したうえで例年よりも時間を短縮して実施した。（募金箱も距離を置いて設置）



併せて、当日は、にしてつグループの協力のもと、西鉄福岡（天神）駅をはじめ、西鉄電車主要各駅の駅員、西鉄グランドホテル・ソラリア西鉄ホテルの接客スタッフ、にしてつストア各店のスタッフの皆さんが各職場で「赤い羽根」を胸に着け、共同募金運動の開始をアピールしていただいた。

(イ) 支 会

36支会で、延べ191回の街頭募金を行い、協力を呼びかけた。

イ 募金資材の活用

(ア) 着ぐるみ（愛ちゃんと希望くん）の貸出し

7支会の催事に合わせ、延べ10回の着ぐるみ貸出しを行い、広報啓発に活用した。

**(3) 歳末たすけあい募金の取組**

経済的困窮や社会的孤立など生活課題を抱えている方々に温かい年末年始を迎えていただけるよう、恒例の歳末たすけあい募金を県下一斉に展開した。

ア 街頭募金・啓発等

(ア) 本 会

a 初日街頭募金

歳末たすけあい運動の開始を県民に周知することを目的に、初日街頭募金を行った。

今年も、昨年同様コロナ感染拡大防止のため、募金呼びかけの場所や1カ所あたりの参加人数を減らし、フィジカル・ディスタンスの確保に努めた。また、フェイスシールド、マスク、手袋を着用したうえで例年よりも時間を短縮して実施した。（募金箱も距離を置いて設置）

(a) 期 日 令和3年12月 1日

(b) 場 所 西鉄福岡（天神）駅周辺（福岡市中央区）

b NHK歳末たすけあい開始

福岡・北九州放送局に募金受付の窓口を設置して協力を呼びかけた。

(a) 募金受付窓口の設置

・NHK福岡放送局 令和3年12月 1日から25日まで

・NHK北九州放送局 令和3年12月 1日から25日まで

(イ) 支 会

10支会において歳末たすけあい募金の街頭募金を行った。

**(4) 地域課題解決型募金（テーマ型募金）の取組**

「福岡県内（広域）における地域や社会課題解決に向けて取り組む事業」を対象事業とし、下記参加団体及び本会により、1月から3月にかけて募金活動を展開した。

ア 参加団体

(ア) 子ども食堂パープル

[テ ー マ]

みんなの居場所を知ってほしい！こども食堂啓発事業

(イ) かすが居場所づくりネットワーク

[テ ー マ]

社会的孤立解消（産後うつ予防等）プロジェクト

イ 振込用紙付きチラシの作成・配布

ゆうちょ銀行振込用紙付きチラシを5,000枚作成し、団体の関係者や協力者等へ配布した。

## 6 適正かつ効果的な配分の実施

### (1) 配分委員会の開催

第1回 令和3年 5月27日 (書面審議)

第2回 令和4年 2月 9日 (書面審議)

第3回 令和4年 3月 3日 (書面審議)

### (2) 配分調査

コロナ感染拡大防止の観点から、配分委員によるA枠施設に対する訪問調査を取りやめ、事務局が書面及び電話による調査を行った。

また、A枠団体も同様に配分委員による調査を取りやめ、事務局職員がクローバープラザ入居団体には面談による調査を行い、その他の団体に対しては、書面及び電話（又はメール）等による調査を行った。

- ・書面及び電話等による調査 18件
- ・面談による調査 7件

### (3) 配 分

配分委員会における厳正な審査の結果として、令和4年3月3日、申請のあった社会福祉施設・団体・社会福祉協議会等への本年度の配分を次のとおり決定した。

なお、B枠及び地域歳末たすけあい募金については、支会の配分計画に基づき配分し、NHK歳末たすけあい募金については、歳末事業費、活動支援金、見舞金等として配分した。

ア 一般募金

(ア) A枠（地域の施設・団体）配分

- ・配分件数 25件
- ・配分総額 32,940,000円

(イ) B枠（地域）配分

- ・配分件数 75件
- ・配分総額 461,150,200円

イ 歳末たすけあい募金

(ア) NHK歳末たすけあい募金配分（地域）

- ・配分件数 416件
- ・配分総額 11,744,000円

(イ) 地域歳末たすけあい募金配分

- a 地域福祉・在宅福祉サービス事業
- ・配分件数 5, 497件
  - ・配分総額 67, 299, 905円
- b 見舞金贈呈事業
- ・配分件数 2, 374件
  - ・配分総額 9, 898, 931円

令和3年度共同募金配分総括表 (単位 円)

配分枠		配分額
一般募金	A枠	32, 940, 000
	B枠	461, 150, 200
歳末たすけあい募金		88, 942, 836
合計		583, 033, 036

※令和2年度地域課題解決型募金(テーマ型募金)配分  
配分額 497, 921円(令和3年 5月27日配分決定)

(4) 公 告

社会福祉法第120条(結果の公告)に基づき、令和2年度(令和3年度事業)募金実績、配分内容等を掲載した機関誌「赤い羽根共同募金」を4,300部作成し、関係機関・団体に配布した。

また、本会ホームページに機関誌「赤い羽根共同募金」を掲載し、公開した。

7 福岡県社会福祉協議会(以下、県社協)との連携強化

県社協との共催による福岡県社会福祉功労者表彰式の開催

福岡県社会福祉功労者表彰式 令和3年10月26日 福岡市 186名

8 顕彰の実施

(1) 福岡県共同募金会会長表彰・感謝

ア 顕彰選考委員会の開催

令和3年 8月 5日 春日市

イ 福岡県社会福祉功労者表彰式において次のとおり顕彰を行った。

(ア) 会長表彰 23名・7団体

(イ) 優秀地区(支会)表彰 25支会

(ウ) 優秀地区(校区分会)表彰 200校区分会

(エ) 会長感謝 88名・7団体

ウ 篤志寄付者に対する感謝を次のとおり行った。

(ア) 会長感謝 16名・114団体

## (2) 中央共同募金会会長表彰・感謝

ア 中央共同募金会顕彰規程に基づく奉仕功労者表彰、従事功労者表彰及び篤志寄付者への感謝の推薦を行い、次のとおり決定した。

(ア) 会長表彰	5名
(イ) 会長感謝（感謝楯）	2名・5団体
(ウ) 会長感謝（感謝状）	5名・8団体

## (3) 厚生労働大臣表彰・感謝

ア 厚生労働大臣表彰実施要領及び感謝状贈呈要綱に基づく共同募金運動奉仕者・奉仕団体表彰及び多額の寄付者への感謝の推薦を行い、次のとおり決定した。

(ア) 大臣表彰	該当なし
(イ) 感謝状	1団体

## (4) 紺綬褒章・褒状

ア 国の褒章条例に基づき、多額の寄付を行った1団体に対して、福岡県知事に進達を行い、厚生労働大臣から内閣総理大臣に対して推薦を行った。

## 9 災害復興に対する支援

### (1) 災害等準備金の運用

災害等準備金は、社会福祉法の規定に基づく全国の申合せにより常に3年間分を積み立てており、令和3年度は、平成30年度から令和2年度の積立額を準備金とした。

ア 災害等準備金の取り崩し

3年間を経過した積立金については取り崩しを行い、令和3年度に再配分した。

令和3年度取崩額 15,076,196円（平成29年度積立分）

イ 災害等準備金の拠出

令和3年8月福岡県豪雨災害の被災地における災害ボランティアセンター支援のため、平成30年度積立額の一部を拠出した。

災害準備金拠出額 5,402,069円

ウ 災害等準備金の積立て

災害支援制度運営要綱に基づき、令和3年度募金総額の3%を災害等準備金として積み立てた。

(ア) 令和3年度積立額 20,664,269円

(イ) 災害等準備金 79,390,409円（令和4年 3月31日現在）

### (2) 災害義援金募集

ア 令和3年8月福岡県豪雨災害義援金の募集

募集期間 令和3年 8月17日から令和4年 3月31日まで

実績 10,353,921円

イ 他都道府県で募集が開始された災害義援金について、各市区町村支会並びに福岡県庁、福岡県社会福祉協議会に対し募集の協力依頼を行うとともに、本会ホームページに募集要項を掲載し、周知に努めた。

- ・ 熊本県南豪雨義援金  
令和2年 7月 8日から令和4年 9月30日まで
- ・ 令和2年2月福島県沖地震災害義援金  
令和3年 2月24日から令和3年 5月31日まで
- ・ 令和3年島根県松江市大規模火災義援金  
令和3年 4月12日から令和3年 5月31日まで
- ・ 令和3年大雨災害義援金（中央共募）  
令和3年 7月19日から令和4年 3月31日まで
- ・ 令和3年8月青森県大雨災害義援金  
令和3年 8月18日から令和3年12月28日まで
- ・ 令和3年8月長野県大雨災害義援金  
令和3年 8月27日から令和4年 3月31日まで
- ・ 令和3年9月長野県茅野市土石流災害義援金  
令和3年 9月14日から令和4年 3月31日まで
- ・ 令和3年7月大雨災害静岡県義援金  
令和3年 7月 8日から令和3年10月29日まで
- ・ 令和3年7月島根県大雨災害義援金  
令和3年 7月16日から令和3年 9月30日まで
- ・ 令和3年8月島根県大雨災害義援金  
令和3年 8月25日から令和3年 9月30日まで
- ・ 令和3年7月広島県大雨災害義援金  
令和3年 8月26日から令和3年12月28日まで
- ・ 令和3年8月広島県大雨災害義援金  
令和3年 8月26日から令和3年12月28日まで
- ・ 令和3年8月佐賀県豪雨災害義援金  
令和3年 8月23日から令和4年 3月31日まで
- ・ 長崎県令和3年8月大雨災害義援金  
令和3年 8月24日から令和3年12月30日まで
- ・ 令和4年3月福島県沖地震災害義援金（福島県）  
令和4年 3月22日から令和4年 6月30日まで
- ・ 令和4年福島県沖を震源とする地震に係る災害義援金（宮城県）  
令和4年 3月28日から令和4年 6月30日まで
- ・ 令和4年3月福島県沖地震災害義援金（中央共募）  
令和4年 3月29日から令和4年 6月30日まで

## 10 受配者指定寄付金の普及と活用促進

中央共同募金会の審査結果に基づき決定した寄付金を受け入れ、指定された事業に配分した。

ア 寄付額 2件 50,705,631円

イ 配分額 2件 49,491,520円

## 11 「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援 全国キャンペーン」の実施

新型コロナウイルスの感染拡大により、度重なる緊急事態宣言等の影響等で、生活に困窮される方の増加、いのちに直結する課題など、深刻かつ急務の課題がなおも山積していることを受け、本会では、昨年度に引き続き中央共同募金会及び全国の共同募金会とともに、「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援 全国キャンペーン『いのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～』」を協働実施し、地域の子どもたちとその家族に対する活動や高齢者、障害者等、その他支援を必要としている人に対する活動団体へ助成を行った。

- ・件数 11件
- ・助成額 3,498,077円

## 12 公益補助事業等への協力

### (1) 令和3年度中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

本会が推薦を行った施設整備費助成事業について、下記のとおり決定された。

- ・件数 4件
- ・助成額 6,000,000円

### (2) 令和3年度車両競技公益資金記念財団助成事業

本会が推薦を行った助成事業について、下記のとおり決定された。

ア 高齢者、障害者の支援を目的とするボランティア活動に対する助成事業

- ・件数 5件
- ・助成額 1,875,400円

### (3) 「24時間テレビ」福祉車両贈呈事業

日本テレビやFBS福岡放送をはじめ、チャリティー加盟各社（全国31の放送事業者）が行う「24時間テレビ 福祉車両寄贈事業」について、市町村社協を通じ各施設・団体・個人への周知等に協力した。

## 事業報告の附属明細書

令和3年度事業報告には、「社会福祉法施行規則」第2条の25第3項に規定する附属明細書（事業報告の内容を補足する重要な事項）が存在しないので作成しない。

